

## 新型コロナウイルス感染症への対応について

ご安全に！

暖冬と言われた冬も終わりを迎え、桜の開花とともに春らしい気配がしてきました。

AP20春季取り組みも3月11日以降、4月1日時点で交渉単位組合292組中、171組合で回答を引き出していますが、交渉が継続している加盟組合も多くあります。労使でしっかりと議論を尽くし、より良い結果を導き出すために、産別としても引き続き支援してまいります。

さて、3月に入り新型コロナウイルスによる感染が一気に拡大し、今なお全国各地で感染者が増加しています。それぞれの労使におかれては、テレワークや出張制限など感染拡大防止に向けた各種対応・対策に取り組まれていると思います。

目に見えない脅威に対して、①密閉空間 ②密集場所 ③密接場面 の「三つの密」が同時に重なる場所を避ける、このことは早くから注意喚起されていますし、可能な限り意識し行動することは、これからも守るべきですが、加えて、自らが感染しているかもしれないという立場に立って、行動を控える、制限することも必要な状況になってきています。

収束がいつになるのか全く先行きが見通せない状況ではありますが、感染者の爆発的増加による医療崩壊、経済活動の停止は何としても避けなければなりません。「自分は大丈夫」ではなく「自分も危ないかも」と意識した行動を心がけましょう。

このような状況下、基幹労連の加盟組合においても事業に対する影響が出始めていますし、私たちの携わる事業は、その特性から世の中の動きに対して若干の時間差で次第に影響が出てくる傾向にあり、今後、事業環境への影響拡大が懸念されます。

基幹労連としては、好循環の基軸である安全と健康はもとより、働く場を守り、雇用と生活を守る対応を進めています。足もとでは、連合や金属労協、国民民主党とも連携をはかる中で、まずは中小・小規模事業者に対する事業継続支援、特に雇用対策を最優先としたスピード感ある対応を求めてきました。また、補正予算の可及的速やかな編成を求め連合がまとめた緊急提言「新型コロナウイルス感染症拡大に対する総合的対策について」を支持・支援するとともに、来週には金属労協の仲間と各党への要請行動を行うこととしています。

これまでに経験したことのない厳しい事態ではありますが、軸をぶらさずに、「常に人を真ん中に据えた」視点で、ともにこの難局を乗り越えましょう。 ご安全に。

2020年4月2日

日本基幹産業労働組合連合会

事務局長 津村 正男

※連合の緊急提言は連合のホームページに掲載されています。

[https://www.jtuc-rengo.or.jp/news/news\\_detail.php?id=1595](https://www.jtuc-rengo.or.jp/news/news_detail.php?id=1595)